

1. 調査報告概要表

作成日 平成 19年 7月10日

【評価実施概要】

事業所番号	1072400276
法人名	株式会社オギノ電子工業
事業所名	グループホーム スマイル
所在地	群馬県甘楽郡下仁田町大字西野牧 5803-1 (電話) 0274-84-2611

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町 2-29-5 コミュン100 1-B
訪問調査日	平成19年 6月 26日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 12月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	11 人 常勤 7 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 7.9

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	階建ての 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,500 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	80 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	下仁田厚生病院 大沢クリニック ひらやなぎ歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

代表者が地元ということもあり、地域住民との関係性が自然な形で形成されており、地域密着型のサービスとして又、地域の一員としての機能が果たされている。自然環境の中で職員は利用者個々の特性を理解し、伸々と自由に出来る事は可能な限り行っていただくよう支援・生活されている。利用者、職員が共に安らぎの持てる体制づくりがなされており、日常的に穏やかな時間帯が共有化されている。これらは評価に値するものであり、今後も継続されることを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ・運営理念の啓発=ホームの理念や役割が地域に理解されるよう、運営理念の啓発・広報に取り組む。 ⇒地域の保育園・学校との交流・行事への参加等でホームの理解は深まっているが、広報「たより」への取り組みは検討中の状態である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義を理解しており、自己評価は職員会議で職員の意見を取り入れている。外部評価については、結果を掲示すると共に改善点を話し合う等の取り組みが行われている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議の場を活用し、サービスの実情や外部評価の結果・改善策の取り組み等を報告している。運営推進会議の委員として行政に依頼し、出席は得られて無いが福祉課担当者とは日頃から行き来している為連携が図られている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族等の訪問時には、日常の様子を伝え意見・苦情等が言い易いような雰囲気づくりは心掛けているが、定期的な文章による報告「たより」等は行なわれていない為、今後は「ホームたより」の発行を検討している。家族等から出された意見・要望等については、ミーティングで確認を行い運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームが代表者自宅の同敷地内に設置されている事から、自治会を通じて地域との関係も良好であり、日常的に地元の保育園・学校等の交流が図られている。又、地域のお祭り等の行事にも参加している。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームが代表者自宅の隣地に設置されており、自動的に自然な形で地域の中に溶け込んでいる。「笑顔あふれるグループホームをめざしています…」を理念として掲げ、地域との交流も図られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所等に掲示してあり、朝・夕のミーティング時に職員と確認を行い、理念の共有に向け日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	代表者の自宅が同敷地内である事から、自治会を通して隣組等との関係も良好であり、日常的に地域の保育園・小学校等の交流が図られている。又、地域のお祭り等にも参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解しており、自己評価については、職員会議等で全職員の意見を取り入れ確認を行っている。外部評価については、掲示すると共に結果等踏まえ、改善点について話し合う等、改善策への取り組みが行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者やサービスの実際等、自己評価の内容や取り組みの説明を行い、外部評価の結果も報告・検討を行いサービス向上に生かされている。会議録としての「報告書」がある。	○	運営推進会議の委員として、行政及び地域包括支援センター等に依頼をしたが、行政等の方針で委員として定期的に出席することは不可能との事。毎回の出席は不可能であっても、ホームの状況や運営推進会議の様子等を理解していただく為にも、可能な限りの出席依頼の働きかけを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には行政としての出席は無いが、町福祉課の担当者とは日頃から行き来しており、ホームの実情や取り組み等を伝え、連携が図られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族等の訪問時には、利用者の日常の様子を報告している。又、健康状態や問題等が発生した際は電話連絡を行っている。しかし、定期的に家族等へ文章での報告は実施されておらず、今後はホーム便りの発行を検討中である。	○	家族の訪問時には状況等の報告は行われているが、訪問出来ない家族等への安心感のためにも、ホーム便りの発行により定期的に暮らしぶり等、個人情報の保護の観点も含めた取り組みを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の訪問時には、意見・苦情等が言い易いような雰囲気づくりに心がけている。又、利用料の支払い時(1回/月)には家族から意見・要望等聞き、出された事柄についてはミーティングで確認し運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2年程前は、他の地域にグループホームを新規に立ち上げ、経験上数人の職員が異動した経緯はあるが、このところは固定され安定的なケアが行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加し、参加者がミーティング時に報告を行い共有している。又、研修資料は全職員が閲覧し確認している。研修参加は一部の職員に偏り気味である事を是正し、参加し易い様に希望者には交通費・食事代を支給する等の体制が取られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会に加入及び南部ブロック(藤岡・富岡・下仁田)に所属しており、研修や活動等を通して交流を図り、サービスの質向上への取り組みが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望時は、本人・家族にホームの様子を見ていただき、職員も訪問し本人と面談を行う等の相互で安心感が持てるように努めている。又、契約時にはホームの雰囲気に馴染めるよう、体験的利用も可能であることを伝えてる等の工夫がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と生活を共に過ごすという観点から、日常的に食事づくり・菜園活動等を通して人生の先輩として接し、支えあう関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者からは日々の会話やふれ合いの中から真意を探り、家族からは面会時等で意向把握を行い、利用者本位に向けての検討を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者は日常生活の中で、家族からは面会時に要望等を聞き、職員会議で話し合いの上介護計画を作成している。介護支援専門員の異動等の状況もあり、アセスメント表等の記載活用が実施されておらず利用者・家族の意向欄が数年間同様の記載内容であった。	○	利用者等の希望・意向の把握は口頭確認のみならず、アセスメント表(独自のアセスメント等)に基づき定期的な確認チェックを行うことでより個別的な介護計画を作成し、ケア等に繋げることを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には、1回/3ヶ月の見直しをサービス担当者会議で行っている。又、変化が生じた場合は現状に即した随時の見直しも行なわれている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近隣の高齢者が利用できるように共同型デイサービスの指定を受け又、医療機関との連携(24時間健康管理)を強化する等、多機能性を生かした支援体制が整えられている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員の利用者が希望する掛かりつけ医に(1回/月)受診しており、基本的には家族の同行ではあるが、希望等に応じて職員による受診支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	該当するような利用者がいないこともあり、重度化や終末期に向けてのあり方については、今後の課題として現在は検討の段階である。	○	終末期を含め状態変化等に備え職員間の共通認識として、家族等の意思確認(アンケート等)を行い、関係者や医療機関との連携を図り、対応方針等の文章化を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員はプライバシー保護や個人情報保護法を理解しており、利用者の人格を尊重しつつ支援を行っている。又、ミーティング時には折に触れ確認している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの経歴等を生かし掃除・調理・菜園等、利用者の希望やペースに合わせて日常的に行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量を考慮の上、職員と一緒に調理・盛り付け・後片付け等を行っている。又、食事は職員が各テーブルに同席し、会話を楽しみながらの支援が行われていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夏期(7・8・9月)は3回/週(月・水・金)、それ以外は2回/週(月・金)の午後に入浴を実施。又、必要に応じて清拭やシャワー浴を行っているが、利用者からの希望等は確認されていない。	○	「入浴を楽しめるように支援」の観点から、入浴日時等の設定以前に利用者各自の希望確認を行い、希望に添った入浴支援が可能等の働きかけを期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の状況に応じて草むしり・清掃・洗濯物たたみ等、出来そうな事は日常的に行っていただけよう支援し、出来た時は職員が感謝の言葉を伝えるようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節感を味わえるようお花見やドライブ等、定期的に出かけている。又、散歩に出かけたり屋外にベンチを設置し、お茶飲み・歌を唄う等の支援が日常的に行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることへの弊害は理解しているが、玄関は夕方から翌朝(16:00～翌10:00位)迄の時間帯は職員体制等の関係から施錠しており、日中も状況により施錠することがある。	○	利用者や外来者等の心理的な圧迫感への観点から、外出傾向の人への具体的アセスメントを行い、行動等についての対応策を検討し、常時日中は施錠しなくても済むような取り組みを期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2回/年、消防署が立会いの下、全員で避難訓練を実施しており、マニュアルに添った研修等も行われている。又、2回/月程度外出時に避難訓練を兼ねて外迄の誘導を行う等の取り組みがなされている。近隣の協力体制については、区長を通じてお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表や食事チェック表の活用により、個々の栄養バランスを把握しており、水分量については、毎食時・10時・15時・17時等提供し十分に摂取できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内等の共有スペースは、木材が多く使用されており木の温もりが感じられる。又、天井が高く採光や換気等へ配慮した構造であり、居心地よく過ごすための工夫がなされていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具等は、安心できるよう利用者や家族と相談を行い、使い慣れた馴染みの物を持って来ていただくようにしている。居室には馴染みの箆笥・テーブル・写真等があり、安心して過ごせるような配慮がなされていた。		